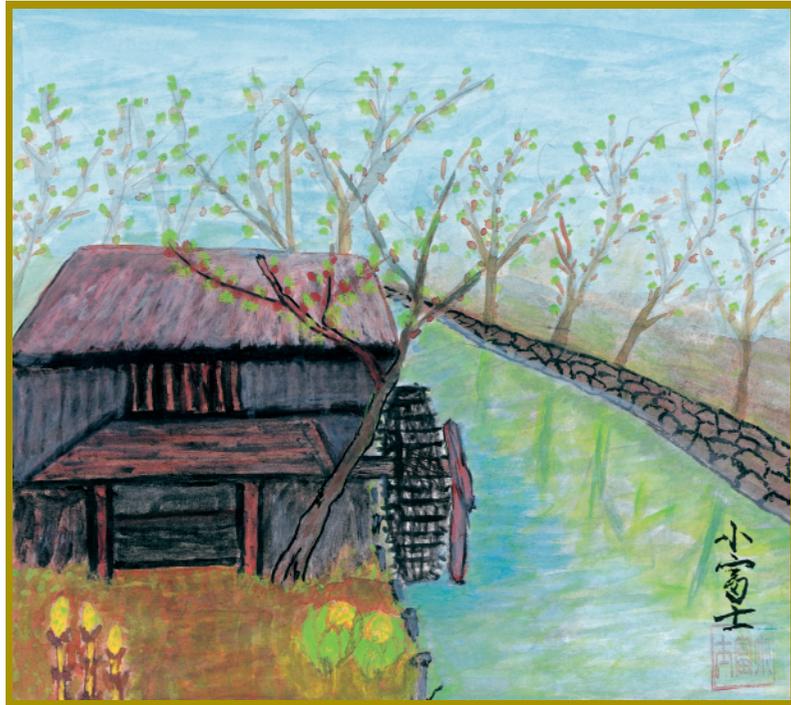


# 新 生

草も木も 春を呼んでる 水車 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十七年三月十日印刷  
平成二十七年三月二十日発行

新生第六十七巻 第一号

新 生

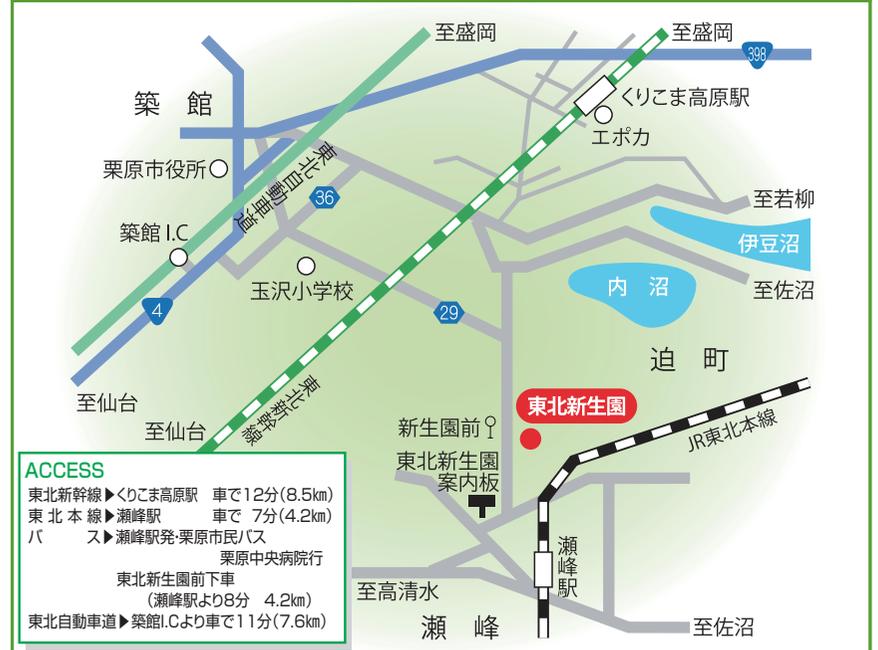
平成二十七年三月十日印刷  
平成二十七年三月二十日発行

第六十七巻 第一号

## 東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男36名 女49名 計85名
職員定員数	153名(平成26年4月1日現在)
園長	医学博士 横田 隆

## 東北新生園交通案内図



# 秋田県赤十字芸能奉仕団慰問公演

— 平成26年11月11日 —



## 園内日誌

平成二十六年 十月～十二月

平成二十六年十月～十二月 (敬称略)

## 【謝寄贈図書欄】

### 《十月》

- 五日 第十二回少年少女野球東北新生園大会
- 八日 盲人会旅行 (長沼・内沼見学)
- 八～九日 山形県里帰り旅行
- 十七日 秋季バス旅行 (仙台・定義山)
- 二十一日 曹洞宗宮城県宗務所婦人会霊安堂参拝
- 二十三日 宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室慰問
- 二十七日 秋田県羽後町慰問

### 《十一月》

- 五日 パネル展
- 六日 パネル展・屋台まつり
- 七日 宮城県主催民謡・歌謡公演
- 十一日 秋田県赤十字芸能奉仕団慰問
- 十二日 新潟県藤楓教協会
- 二十日 秋田県周辺地区結核予防婦人会慰問

### 《十二月》

- 十六日 SENDAI光のページェント見学バス旅行 (宮城県・県八ッ森)協会招待
- 十九日 岩手県慰問

高 原 郡 馬 栗 生 楽 泉 園	多 磨 東 京 多 磨 全 生 園	菊 池 野 熊 本 菊 池 久 光 明 園	愛 生 岡 山 長 島 愛 生 園	始 良 野 鹿 兒 島 星 塚 敬 愛 園	甲 田 の 裾 青 森 県 松 丘 保 養 園	青 松 香 川 県 大 島 青 松 園	点 字 愛 生 岡 山 県 長 島 愛 生 園 盲 人 会
-------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	-----------------------	-------------------------	---------------------	-------------------------------

平成27年3月10日 印刷  
平成27年3月20日 発行

発 行 東北新生園楓会(自治会)  
編 集 楓 会 文 化 部  
印 刷 川 内 印 刷 株 式 会 社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)  
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十七巻第一号……………目次

表紙…「早春」……………桃生 小富士

新年によせて……………楓会会長…久保 瑛二…(2)

遠隔画像診断の話……………

—レントゲン画像を放射線専門医に診断してもらいましよう—

「もう定年退職です」……………園長…横田 喜久子…(5)

妄想そして感謝……………薬剤科長…高橋 かつ江…(11)

感謝……………准看護師…小野寺 とき子…(17)

|| 新生文芸 ||

詩……………選者…佐々木 洋一…(19)

短歌……………選者…長田 雅道…(23)

俳句……………選者…山田 桃晃…(25)

川柳……………選者…栗石 隆子…(26)

新生園にて……………調理師長…門脇 昌幸…(28)

私の三十五年の思い出……………調理師…佐藤 善広…(29)

「六十分の二十四」の区切り……………調理師…高橋 善正…(30)

おばあさんの立ち話……………看助手…今野 ぎよし…(31)

「思い出」……………看助手…八幡 順子…(34)

「思い出」……………看助手…佐藤 宏行…(35)

二十三年の勤務を終えて……………看助手…尾形 ありえ…(36)

園内日誌・謝寄贈図書……………

# 新年によせて

楓会会長 久保 瑛 二

平成二十七年の新春を迎え、おめでとうございます。

昨年は、会員各位をはじめ、職員の皆様、また外部の多数の皆様方のご理解とご支援とご協力を得まして、当自治会の諸々の活動を進めることが出来ましたことを、ここに改めて深く感謝申し上げます、併せて本年も倍旧のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は行幸啓の御成りをいただき、入所者、職員ともどもにそれぞれの心に残る記念すべき年でもありました。

また、当園の開設七十五年の節目の年でもあつて、多彩な行事もあり、意義深い年でもありました。

二〇一五年の幕開けは、世界の各国ともに深刻化する不況が伝えられ、わが国の平成二十七年度の予算は緊縮型で示され、先行き不安が懸念されるものでした。一方、社会はなにごとに置いても、驚くばかりの情報化時代に入り、昭和一桁生まれの私には歴史の変遷に感慨無量のものを感じております。

年去り、年来たりの言葉ではありませんが、新しい年の歩みの中で思うことは、自治会活動の先行きのことであり、日々変化の激しい時代に、どう対応して行くべきか悩みが絶えません。

当園入所者の平均年齢も八十五歳余りともなり、日々高齢化と不自由度の亢進はもとより、いつも云うことですが、認知症、成人病などの合併の急増という多くの問題を抱えて、不安と焦燥感に駆けられる日々であります。

特にハンセン病療養所の新しい時代の息吹ともいうべき、将来構想とも相俟つて、「特殊社会」視された中で、平成二十一年に「ハンセン病問題解決の促進に関する法律」が施行され、また同じ日に「国立ハンセン病療養所の利用に関する省令」も改正されました。

これらの法律の目的は、年々減少する入所者が地域社会から孤立することなく、かつ終生利用可能な良好な生活環境を確保できるようにすることが記されています。

このことを踏まえて、地域住民の声を聞き、地域にあった新しく生まれかわる療養所の策定に努力を傾注したいものです。

さて、話は長くなりましたが、重ねて云うようですが、良好な生活環境を確保出来ることを策定し、取り組んでいきたいと考えています。

特に終末期に入りつつある療養所において、国立医療機関として安心して療養出来る施設づくりの当園の第2期的将来構想は時を待てないところにきていますと思えます。

今年も私たちをめぐる諸情勢は一段と厳しさを予測されますが、関係各位の格段のご指導とご支援を申し上げます。

最後になりましたが、皆様の益々の幸多い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます、年頭の挨拶と致します。

## 遠隔画像診断の話

ーレントゲン画像を放射線科専門医に診断してもらいましょうー

園長 横田 隆

平成十六年七月に当園に赴任した当時、CT スキャン（断層撮影）は各医師が各自でオーダーし、読影して診断していました。当園の他の医師より、「専門以外の部分に関しては、放射線科の専門医に読影してもらえないだろうか」という問い合わせが多くあり、私自身も消化器外科医であるので、腹部のCTはなじみがありますが、脳などに関しては、詳細にわたっては今ひとつ不明なところがありました。

当園にて、撮影したCTをインターネット

に乗せて、放射線科の専門医に送り、その診断を当園で受け取ることが出来れば…これは入所者にとつては、非常に有益なことと考えました。わざわざ、遠くの大きな病院にCTを撮りに行かなくてもよいからです。

当時、私は副園長として赴任した直後、当園での初めての事業でしたが、予算確保には本省は非常に協力的で、スムーズに話が進み、画像を送る相手方の病院の院長・副院長、読影してくれる放射線科医長などと幾度となく、打ち合わせを行いました。入札間近となって、

放射線画像を送る、相手病院の他の部門には全く連絡が行っていないことが判明し、一時は計画も頓挫かと思われましたが、関係部署に頭を下げ、謝り続けて、何とか入札にこぎ着けることが出来ました。これも、私が多方面に根回しをするのを怠っていたためで、若気の至りと言う他なく、反省させられたものでした。

読影してくれる放射線科のドクターの負担は大きく、その点は全面的な協力が得られないと話が進まないことですが、相手病院にとつては必ずしも悪い話ではない、と安易に思っていたのも失敗でした。

京都市内の医科大学に七年ほど所属しましたが、大阪の個人病院に当直などしにいくと、院長より、「君な、給料の十倍は稼いでや」と言われます。今から三十年近く前の話です

断システムを作りたい一心で、関係方面に詫びを入れ、「副園長つてのは、謝るのが上手いもんだ」などと言われたものでしたが、まさに「韓信の股ぐり」<sup>注</sup>的な心境でした。

注）韓信の股ぐり…中国の故事より、韓信という武将が若い頃、大望があつたため、ちよつとしたことや、恥などは気にせず、股をくぐるような恥辱にも堪えたことを喩えたもの。

韓信という、中国のえらい武将がいて、若い頃に街の荒くれ者に言いがかりをつけられたけど、将来の目標があつたので、我慢して堪えに堪えたという故事です。

興味深いことに、日本にも同じような故事があることに気づかされます。

が、若かったこともあり、「わかりやしたあく」と院長に答え、当直も頑張った記憶があります。患者一人診るごとに、どのくらいの収入があつたかを事務当直に教えてもらい、出来るだけ入院を増やし…ということでお応じたものでした。一晩で十人以上入院したこともあり、スタッフはさぞ大変だったでしょうが、そのようなときは、十倍以上稼いだ…という満足感で、大学にもどりました。

東北地方にはさすがに、給料の十倍稼げ”という院長はいないようで、一安心ですが、儲けなければという基本的考えは常に頭にあつたようでした。だから、儲かる話は誰でも喜ぶと考えていました。各局部に根回しを怠っていたのも、そのあたりの甘さが引き起こした、誠に愚かな行動ではありました。

あの当時、もう十年以上前になりますが、何としても新生園にレントゲンの遠隔画像診

お馴染みの「忠臣蔵」の四十七士の一人、崎与五郎が討ち入りのために江戸に向かう途中、箱根で駕籠屋から因縁を付けられたことがありました。与五郎は、討ち入りという大事の前にもめ事を起こしてはいけないという思いから、土下座してその駕籠屋に謝ります。後日、討ち入りの義士の中に与五郎がいるのを知った駕籠屋は、事情を知り、己を恥じて頭を丸め、生涯、与五郎の菩提を弔ったとのこと、少し出来すぎか…とも思われますが、日本人好みのよい話ではあります。

忠臣蔵と言えば、私は忠臣蔵が大好きで、十二月が近づくと、TSUTAYAで「赤穂浪士」のDVDを借りてきては鑑賞しています。結末は変わることにはないのにも関わらず、討ち入りの場面では結構ドキドキして観ています。吉良が見つからないで探しているシーンでは、「ああ、早く炭焼き小屋を探してっ！」

と焦ります。

「忠臣蔵」で好きな場面は二つあり、一つは討ち入りの日、大石内蔵助が、松の廊下事件で切腹した浅野内匠頭の奥さんの瑤泉院に暇乞いで訪ねる場面で、瑤泉院は、いよいよ討ち入りか、とワクワクして大石に尋ねるので、大石は、「仕官が決まりましたのでお別れに…」と答える。怒った瑤泉院は大石を追い返します。ところが、大石が置いていった書き付けを見ると、これが四十七士の連判状だったことがわかります。悔やむ瑤泉院。雪の中を去って行く大石を瑤泉院は涙で見送る…という場面。

もう一つは、討ち入りの際、吉良亭の隣の旗本の屋敷に向かって、赤穂浪士の一人が、「亡き殿の無念を晴らすために、討ち入りに参った」と口上を述べると、隣の屋敷から堀



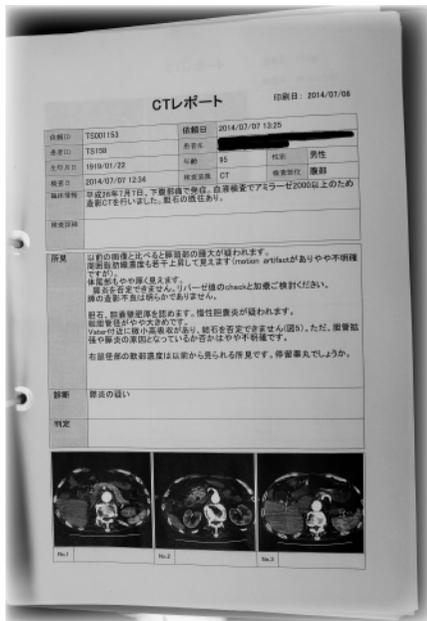
(写真1)

沿いに高張提灯が多く掲げられ、吉良の屋敷内を照らして討ち入りに助勢する、それを見て、浪士達は手を合わせて心の中で涙する、という場面です。ただ、これも思つて見れば、吉良さんは隣近所とよい人間関係を結んでいなかったのかと考えさせられます。私の仙台の自宅のお隣さんは、国立仙台病院で長期にわたり、事務を勤めた方ですが、もし、私の家に夜中、強盗団が押し入ったときに、隣の家から多くのライトが照らされて、強盗しやすいうようにされたら…これは相当悩むでしょう。その当時は江戸中の人々が赤穂の浪人を応援していたのかもしれませんが。

話はレントゲンの遠隔診断にもどりますが、園内で撮影したレントゲンを医局でまず担当医師が見て、これをパソコンからインター

ネットに乗せて相手の病院の放射線科のパソコンに送ります(写真1)。

放射線科の医師は、その画像を撮影して診断をつけ、またインターネットに乗せて返事をしてくれます(写真2)。



(写真2)

これで、大きな病院に行かないでも、放射線の専門医にレントゲンが読影してもらえらることになります。

現在、仙台医療センターの放射線科に画像を送り、放射線科医長の先生に読影していただいております。放射線科のドクターにとっては、プラスチックの仕事であり、お忙しいところご面倒をおかけしてはいますが、いつも快く診断して下さい、大変ありがたいと感謝しているところです。この放射線科の先生とは、私は十五年ほど前に仙台医療センターと一緒に働きましたが、レントゲン読影の技術は勿論のこと、血管造影のスペシャリストでもあります。細い血管に管を入れて撮影しますが、またたくまに成し遂げてしまひ…という神業を何度も見せていただいたものでした。

平成十七年より行っているこのレントゲン

## 「もう定年退職です」

薬剤科長 高橋 喜久子

今年の春で、国立療養所東北新生園薬剤科を最後の公務員生活の勤務地として退職いたします。

皆様お世話になりましたありがとうございます。御礼申し上げます。

定年退職という文言は、自分でも信じがたく、まだまだ余力も残しておりさらに明日からもという気持ちも十分ありますが(実はなにかも…そうです無理無理)、〇〇才のベテラン(ポンコツとも言ふ)は、とっとと消え行くことにいたします。

東北新生園の薬剤科には、約六年間勤務さ

の遠隔画像診断ですが、現在、1000例を超えています。当園で撮影したレントゲンの診断を専門医にさせていただく、という非常に優れたシステムと考えております。今後とも有効活用を考えていきたいと思っております。



せていただきました。他で勤務した病院とは一味違った楽しいことがいっぱいありました。先ず最初にあげるのは、敬老会での私の歌です。とても上手、プロになればいいのにとの評判をいただきました(と、思い込んでます)。

でもなんといつても、一番は、会長さんをはじめ関係者の方々のご尽力による夏の花火大会、超有名な歌手の方の歌謡ショー、SEND AI 光のページェント見学バス旅行等々、尽きることはございません。貴重な経験を積させていただきました。また私事でございますが、各学会、研究会等にも、快く参加させていただきましたことについても大変感謝しております。私の薬剤師人生で大変役立たせていただきました。

貴重な経験といえば、昨年、天皇、皇后陛下の行幸啓です。一生涯にないことですので、大変感激をいたしました。

園長先生、そして、会長はじめ入所者の皆

さん、職員の皆さんお付き合いいただきまして本当にありがとうございます。今後は、東北新生園の応援団の一員としてご協力させていただきます。と思っています。

では、ひとつだけ公務員人生を振り返らせていただきます。

私が国立病院の薬剤科(職場)に採用された時、そしてその後もこの職場は、ずっと男性社会でした。もちろん、一部のところを除けば、日本のほとんどの職場は男性社会です。この環境の中で、私の至らなさが多々あるのも一因ですが、女性が定年までの長い年月を働くのは非常に大変なことでした。ワークライフバランスは、簡単ではなく長い道のりになると思います。私は、基本的に働くことは嫌いではありません。しかしながら、生活との調和は難しいものです。当然、サポートは重要です。幸い、女性に対する一般常識人として気配りが出来る上司、同僚等に私は恵まれました。一方、そうでないひとにも

出会いました。しかし、また、幸いにもそういう人は少数でした。

さらに、薬剤科から一步出れば、逆に女性の看護師さん達がおり、ずいぶん気持ち的にも助けられました。この恵まれた環境の中でもバランスをとるのは大変でした。言うにいわれないようなこともたくさんありました。「田嶋陽子」さんの言動で言いすぎ偏りすぎなような女性援護との批判もありますが、ある意味同感でできる発言も多々あるのです(政治思想はあまり同調できません)。それでも、仕事は毎日続きます。商売の極意に「変な客は本命」との名言があるそうです。薬剤科では、仕事の上、仕事以外でもいろいろな事をいろいろな人に言われましたが、この名言に照らし合わせるよう工夫できるような頭を絞りました。とにかく、男性だろうが、女性だろうが自分から一步踏み寄れば、相手は0.5歩近づいてくるかもしれないとの信念を持ち続けました。定年は、もっと早く近づい

てきてしまいました(笑)。

今でこそ、各薬剤科に女性は増えております。いろんな面で職場環境も、向上していると思います。私の時代には、確たるワークライフバランスを目指す道はなかったように思います。そこで、限りなく頼りない道ですがこの何年間はある意味必死で道作りをしてきたと、努力してきたと少しだけ自画自賛しております。どうぞ私より数倍も優秀な後輩の皆さん、がっちり固めた道を完成させていただければと願っております。男性職員の皆様はいろんな面で言うに及ばずご努力を期待しております。

でも、硬い仕事に疲れたらストレス解消はとても大事です。時間管理を大切にして、余裕を作り出しましょう。歌って踊れる薬剤師とかが一番です。私の解消法は秘密です。こんなところで私の振り返りはおしまいとさせていただきます。

もちろん、他にもたくさん思い出はあり

ますが、性格的に前しか見ないことをモットーとしております。もし、何かの機会(飲み会でしょうが)に世迷言私の中ではアドバースと解釈します(を聞きたくなくなったらどうぞお呼びくださいませ。楽しみに待っております)。

「人生、出会うべき人には必ず出会う、しかも一瞬たりとも遅からず、一瞬たりとも早からず、しかし内に求めたる心無くば、眼前にその人ありといえども決して縁は生ぜず。」森信三という哲学者の方の言葉で私の大好きな言葉です。

私は、多くの素敵な人に会うことが出来ました。いっぱい助言をいただきました。そして、お世話にもなりました。たいした心眼も持ちあわせてはおりませんが、ラッキーなのでしょうか。それでも、思い続けることは得意です。思って！思って！思い通せば必ず出会います。物事もなんとかなるものです。

仕事には、三つの区切りがあるといわれて  
おります。二十歳から四十歳まで。四十歳か  
ら定年まで。定年からはジョブホッピング！  
ガタゴト走るポンコツ機関車でも、攻撃的な  
好奇心は、旺盛です。乞うご期待!!  
最後に、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。  
心からありがとうございます。



## 妄想そして感謝

准看護師 小野寺 かつ江

時の立つのは早いものです。

いつまでも若いと思っていました。定年  
退職になります。

これまで日々忙しさの中、夢中で仕事、子  
育て、介護や親の看取り、自分自身の病気療  
養等々があり、どうにかこの時を迎えること  
が出来たのです。

白衣とは不思議なもので、身に着けたとた  
ん、仕事モードの自分に変身し、体調が悪く  
今日は無理かもと思っただけでも、着替え  
たとたんシャキーンとリセットされる。自然  
に体調は回復し体が動くんです。

私服の自分ではない私がそこに居る。何度

も体験しました。

その白衣を脱ぎ、四月から無職で無収入（一  
年間）無期限の休みになります。

私は毎日どう過ごすんでしょうか？

目覚ましなしで朝起きて、コーヒーを飲み  
ながらゆっくりダラーとして、朝食を作り食  
べて、朝ドラを見てから新聞を読む、それか  
ら掃除、洗濯、昼寝して、お茶のみしたら、あつ  
という間に夕方の支度、唯一の楽しみ寝るこ  
となのです。

日々がこんな感じで過ごすのだろう。そも  
そも私は根からのズボラな性格「今でしょ」  
ではなく「後でいいでしょう」の方。家の外  
に出るのはゴミ捨ての時だけ。ほとんど家の  
中。服は一日中部屋着で過ごす。

人は退職したら欲が出る。畑で野菜作り、  
花壇の手入れなどしたくなるから大丈夫と  
言ってくれますが、そうだろうか？

土には触らないと思う。なぜならヘビが大  
の苦手なのです。

ある昼休みの事、誰かが御歌碑を見に行こ  
うとなり、何人かの看護師と一緒に登りまし  
た。

秋の終わり、途中に黄や赤の落ち葉の中に  
黄色のヘビがとぐるをまいて、私の足元に！  
奇声を上げながら、クルクルと後転、一目散  
に逃げ帰りました。なので、私は外は無理な  
のです。

寝て食べてを続けていたら、うわー母の姿  
が九十キロ越え、これもダメだなーとマイナ  
ス思考で今後を妄想している今日この頃なの  
です。

十八歳で自分で就職先を決め、仙台の開業  
医に住み込みで見習い兼お手伝いとして働き  
始めてから四十二年間、お産と病氣入院四回  
以外は仕事を続けてきました。

定年後は少しだけダラーとした生活があつ  
てもいいかなと思っただけですが、これまでの  
人生、自分で決断した事は、だいたいハズレ  
が多かった。これもハズレかもしれないね。

最後までじめに：新生園には二十八年前に入職してから多くの入所者の方との出会いと別れがありました。

入職当時、私はハンセン病について何も知らなかった。無知である事を日々仕事しながら感じるエピソードが多くあり悩み、もう自分には働き続けることは出来ないと思った時期もありました。

ある日入所者の一人から声を掛けられました。「あんだ、この学院卒業ではないだろうから、受け入れてもらうまでは時間がかかるだろう」と学院卒の看護師は特別な思い入れのある存在である事を少しずつ話してくれました。

もつと知らないと思え、当時自治会運営だった図書室から色々な本を借りて読みまくりました。それと「忘れられた地の群像」は私にとつての教科書となりました。

歴史を知ることが個々の社会的背景であり、

入所者の方々がどれほどの思いで生きてこられたのか計り知れない。私の悩みなどは米粒ほどもないと思いつたのです。

入所者の方との出会いの中で、私は「生きる」事を教えてもらいました。

やさしさ、強さ、人を慈しむ心、信仰の力等々、「心の蓋を開けないで、そつとしておいて欲しい」そう言われているような気がしました。

これまで学んだ事は、これからの私の生き方に大きく影響してくれる事を確信していました。

入所者の皆さん、これからお身体を大切に、自分らしく生きていって下さい。大変お世話になりました。ありがとうございます。

職員の皆さん、ご迷惑やらお世話になるやらで、これまで支えて頂きありがとうございます。感謝です。

## 感謝

准看護師 佐々木 とき子

皆様こんにちは。この年度年退職を迎える佐々木とき子です。

平成元年に一週間の病休代替として採用され、こんなにも長い間勤務する事になるとは思ってもいませんでした。

昭和四十五年に看護の道を志し、学院に入學。新生園で退職を迎えられる事を嬉しく思います。

学院の生徒時代は、入所者の方も若く元気で五百人の入所者の顔や名前を覚えることも大変でした。

注射室でプロミンの準備をしていると、「俺の血管見えるから生徒さん刺してみろ」

外科にいと「俺の傷、手入れしてみろ」と優しく声を掛けて下さる皆さんのおかげで、実習項目をクリアでき、無事卒業する事ができました。

卒業後は鳴子病院に勤務し、一時子育ての為に仕事をセーブしていた事もありました。

平成になつて園で働き始めると、「学院の卒業生だったか。よく戻って来てくれたな。」の声をかけて頂く事が多く、実家に戻ってきたような気持ちになりました。

建物や環境が変わっただけでなく、家族の話や出身地の事、各地に旅行に行った写真を見せて頂くと、世の中の理解も少しずつ変わっている事を実感しました。

園内散歩の時は、色々な植物の名前や育て方なども教えて頂きました。どうしてもわからない植物などは、家に帰ってから子供達の図鑑を借用して調べたりもしました。

そんな中でも、盲人の方への言葉で伝える事の難しさも感じ、自分の感性や表現力の未

熟さを痛感しました。それも今は懐かしい思い出であり、探求心はこれからも持ち続けたと思います。

三階建ての第一メーブルが出来た時は、新生園は本館だけが二階建てだったのに、時代が変わったなと思ったのは私だけでしょか。その第一メーブルに三年勤務し、一勤務で階段を駆け登る度、いったい何歩位歩いているんだらうと調べたら、一万二千歩から一万五千歩は歩いている事がわかりました。定年まで何度昇り降りし、何歩歩いたことでしょうか。そのわりには、痩せもせず太る一方でした。実に元年に来た時より二十キロ近く増え、コマージュアルでいうさぎ鳥でなく、詐欺です。カラオケ発表会では、歌と司会と二度出させて頂きました。司会で紹介するので出演者にインタビュに伺った時は、「何も言わずに名前と曲名だけ紹介してくれ。こっちは緊張しているんだから」と意外な一面を見せて

下さった大物の歌い手さんもいらっしやいました。

カラオケの出演依頼や新生の原稿依頼にいらっしやるのは、菊池琢夫さんだった事も思い出されます。その時期に彼の姿を見かけると皆で隠れたものでした。ゴメンナサイ。

二十五年以上働いているうちに、小さかった息子達も、父親になり、私も立派なおばあちゃんです。春からは子守りに専念します。

長い間、健康で楽しく定年まで働いたのも、皆様の優しさのおかげと感謝しております。

瀬峰に住んでいますので、孫を背負ってウロウロして私を見かけたら、どうぞ声を掛けてください。

皆様、一日も長く楽しく、元氣にお過ごしください。

ありがとうございます。

## 新生文芸

### 詩

佐々木 洋 一 選

#### ◇ 入 選 ◇

#### 《津波》 北辰 一 硯

三月十一日の午後二時四十六分  
度肝を抜く大地震に襲われた  
身体中が混乱して  
自分ではないような感覚だった

気仙沼、志津川は津波で全滅という

私の故郷も海である  
弟や妹達の事を思い  
電話を何回掛けても通じない  
友人達がインターネットで  
弟達の安否を  
探してくれたが  
避難所にも、死体安置所にも  
弟達の名前はない  
心配は募るばかり  
妹達が夢で私に会いに来た  
弟や妹達はきっと死んでしまったと  
覚悟を決めた

一週間が過ぎ十日が過ぎ去った  
一人ぼっちになった自分は  
生きる氣力を失くしてしまった  
皆が私を励げまして呉れたが  
上の空だった

津波から十一日目  
午後七時過ぎ電話がなった  
死んだと思っていた弟からだった  
「お前生きているのか」  
妹達は無事かと尋ねた  
電話は途切れ途切れに聞こえている  
部落は全滅  
妹一人津波に呑まれた  
今だに行方が分からない  
あとは大丈夫だという  
弟の声は切れた  
生きている生きていると  
心の中で私は叫んでいた  
津波は台風のように  
白波の牙を研いて来るばかり  
想像していたが  
画面から見た津波は  
どす黒い波が呻めき声と

唸りを立てて  
家も、車も、人も  
凡ての物を、呑み込んで  
攫ってゆく恐ろしさに  
啞然とし心臓が止まるかと思った  
千年に一度の大津波に  
遭遇するとは…  
何万人の犠牲者の中に  
今ただ見つからない妹がいる  
妹は死んだ事を忘れて  
あの大きな海を  
泳いでいるのかも知れない  
いつの間にか  
亡くなった方々に  
両手を合わせていた

【選評】

《津波》

北辰 一 硯

「津波」は、時間の経過と共に分かっていく家族の様子と作者の気持ちのありようが、切迫感を持って表現されています。また、書かざるを得ない強い動機があります。  
「妹は死んだ事を忘れて／あの大きな海を／泳いでいるのかも知れない」の三行からは、妹に対する作者の深い情愛を感じました。

◇ 佳 作 ◇

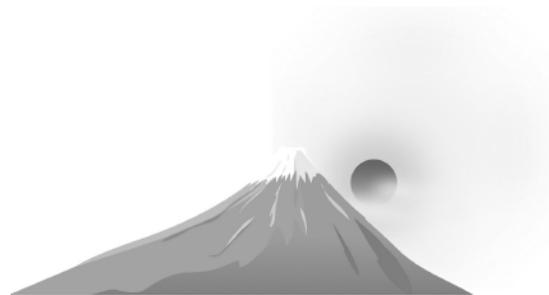
《年末の空》

今 野 きよし

夜が明ける  
東の空には  
朝焼けの  
雲が真赤に燃えて  
気持ちこそそる  
どこかうきうき  
今日も明るい  
一と日始まる  
喜びが湧いて来た  
日が昇る  
朝焼けだんだん  
濃くなった

向こうの方から  
朝焼けの  
雲に映りて  
黄色になつて  
霧のかかった  
空に見えて来た  
空色変り  
霧に見えて来た  
霧舞う空となり  
明るい空から  
暗い空  
忙しく変り  
だんだん暗く  
なつて来た  
赤黄美しい  
空なのに  
今度は白い  
雪化粧

目まぐるし  
忙しい空に  
今日が始まる  
朝のひと時  
年末の空



短歌  
長田雅道選

◇ 入 選 ◇

北辰一 硯  
選挙にかけるお金七百亿という復興に  
かけてくれよと被災者の声

今野 きよし  
リハビリの効果現われ足軽く動けるこ  
とをうれしく思う

自信がないので、添削せず選ばな  
かった。  
このことを聞いたとき、私も被災  
者の方々と同じ思ひだった。政治  
への思いも、大切な素材のひとつ  
である。

【選評】

選歌にあたって私はできるかぎ  
り手を入れないことにしている。  
それは長年、選歌を受けてきて、  
良い歌にしていただいた記憶がな  
いからである。今回も手を入れた  
くなる歌があつたが、よくできる

【選評】

リハビリの効果が現われた時の  
喜びが素直に表現されている気持  
ちのいい歌である。

◇ 佳 作 ◇

北 辰 一 硯

目の手術してから始めて絵心が水湧く如く  
絵筆握らず  
天気予報明日から寒波来るといふせめて  
画題は「早春」と決めたり  
復興の進まぬ浜に見切り付け海の見えな  
い里を選ぶ弟  
サンゴ密漁何百隻も押し寄せて日本の宝  
を根こそぎ獲り去る  
拉致されて三十七年という子供らに隣国  
なれど海ぞきびしき

今 野 きよし

目がきれい貴方もきれい返されてほめつ  
もめられ朝の一時  
元氣だねそうでもないと笑いつつにこに  
こ顔で応えてくれる

頼りない足を引きずりとぼとぼと平行棒  
にて歩行訓練  
パネル展見学旅行行けなくて写真に撮り  
しわが詩に見入る  
看護師の贈って呉れた花飾り留守居の妻  
の心いじらし



今 野 きよし

七種や亡き母の歌が耳底に

【選 評】

七種を叩くりズム「七種叩き七  
叩き」と今は亡き母上の唄にも似  
た包丁の音が耳底から聴こえて来  
る。七種色の母の思い出が懐かし  
い。



◇ 入 選 ◇

園 永 泊

ふる里の民謡胸に山眠る

【選 評】

民謡は懐かしいですね。山眠  
るから宮城県民謡「秋の山歌」ふ  
る里の唄を胸に、いや腹の底から  
唄う楽しさ。眠る山に響かせて木  
霊が身を引き締める。癒しも里の  
民謡、心あたたまる思い出。

齊 藤 照 雄

雪だるま誰が作りし寮の前

【選 評】

この雪達磨は何かを似せて作つ  
たのだと思える。例えば、仏のほ  
のぼのとする木炭の目鼻のつけ方  
などが見えて来る。寮の前にとつ  
しりと座る雪布袋様かも知れない。

◇ 佳作 ◇

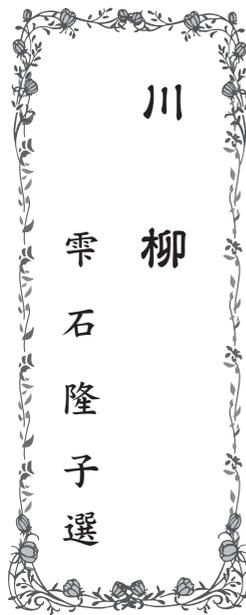
凍らない母の泉が里にある  
園 永 泊  
本当の事を言わない毒さのこ  
思い出の山路たどれば霜柱

今野 きよし

どっしりと木々のふれ合う初日の出  
七種の青さにしばし目を瞑る  
初夢や亡母の気合に目を覚ます

斎藤 照雄

どこからか人集まりて雪合戦  
梅匂う中なる日差し卒業歌  
鳥帰り元の静けさ伊豆沼に



川柳

雫石隆子選

◇ 入選 ◇

《人位》  
お年玉もらう前から正座する  
長沼 蓮花

【選評】

お正月、子供にとって楽しみなのはお年玉。わくわくとした期待感、下五の「正座する」に表れている。平和な家族の一年のスタートである。

《地位》

ともかくも明日を信じて種を播く

斎藤 照雄

【選評】

「ともかくも」の裏には、良いこと辛かったことのすべてが含まれる。それでも明日を信じて、前向きに生きる作者。それこそ身の守りとなろう。

《天位》

療友逝って寒さいよいよ厳しかり

桃生 小富士

【選評】

今冬は想定外の寒さだが、闘病の日々を過ごした友の逝去に心までも冷え冷えたことであろう。まだまだ寒さの続く日々、小富士さんの健康を祈りたい。

◇ 佳作 ◇

あの人もこの人も笑顔文化の日  
文化祭何が出るやら待ち遠し  
吟行に付添いついて敬老の日  
今野 きよし

斎藤 照雄

夢抱いて八十の坂をエンヤコラシヨ  
不具の手を笑って笑ってシャボン逃げ

桜山 南仙

神仏を信じる俺を見捨てない  
遠くより迎えに來り恋の猫  
候補者のこだま帰らぬものもある

長沼蓮花  
ボーナスを当てに子供ら大掃除  
飲み会が続き財布も胃も悲鳴  
行列も苦にはならない福袋

桃生 小富士

筆で書く余裕見つけた年賀状  
八十四才のお蔭さまです施設の灯  
宝くじ夢のまんまで年が明け



## 私の三十五年の思い出

主任調理師 佐藤善広

私は昭和五十四年十一月二日に新生園に採用されて、最初に福祉の自動車運転手兼用務手の仕事でした。そこでの仕事は、何もかもが初めてで戸惑いの毎日でした。その頃、まだ入所者の皆さんもお元気でした。新生園では豚を飼っており、朝に入所者さんの寮を回り、残飯を回収し豚舎に運びました。入所者さんと一緒に豚に餌を食べさせる仕事や一般寮前の道路に砂利を運んだり、草刈りや園の公園の木の剪定作業の手伝いなどの仕事でした。又食事を一般寮や病棟、不自由者棟に配飯車で配食する手伝いもありました。

福祉の仕事は八年で、昭和六十二年に調理

## 新生園にて

調理師長 門脇昌幸

新生園にお世話になり、早三十七年が過ぎようとしています。

仙台の学校を卒業してから、仙台市内に就職し、一年ちよつとだけ働き、二十四歳の時に新生園に入りました。賃金職員として九年間お世話になりました。その後、給食で調理師として採用になり、二十六年が過ぎ去ろうとしています。その過ぎ去った年月が今思うと、あつと言う間で、これといった思い出もなく、なんとか無事に過ごせたことに感謝して、御礼の挨拶にさせていただきます。本当にお世話になり、ありがとうございました。

師免許を取り、給食に職員として採用され、調理の仕事を二十七年間行ってきました。この間には、辛い事楽しい事など色々ありましたが、無事に勤めることが出来ました。

思い出は、県内の施設レクリエーション大会で野球に参加した事と、今から二十八年前頃から新生園でゲートボールを入所者さん達と練習し、園のバスで県内の大会に参加して優勝し、全国大会に行った事が今でも思い出します。

ここ六年前位から看護師長さん達と園のゲートボール大会に参加しましたが、残念ながら一勝も出来なくて心残りです。今年の大会では、看護師長さん達チームが一勝出来ませう願っています。

「勝たなくても楽しいゲートボールでした」

もう一つは、福祉にいた頃、入所者さんと職員のみんなでマラソンを始め、東北六県のマラソン大会に参加して、十キロやハーフマ

ラソンを走った事です。この思い出も懐かしいです。  
最後に、入所者の皆さん、職員の皆さん三十五年間、東北新生園を無事に勤める事が出来た事を感謝したいと思います。

## 「六十分の三十四」の区切り

調理師 高橋 正

おかげさまで、この三月で定年退職を迎えることができました。昭和五十七年六月から賃金職員盲人会係として勤めて十九年、その後定員となり調理師として十五年、三十四年間無事に勤めさせていただきました。ありがとうございました。

私はこの地で生まれ、子供の頃は新生グラ

ウンドや睦ヶ池等を遊び場として育ちました。もともと我が家は常盤寮のあたりにあり、新生園が出来るとの事で、今の場所に移ったそう、ここで勤めるのは祖母、母、そして私で三代目となります。そんなわけで勤務初日の挨拶回りでは、入所者の方々に「とよさんの孫だね」とか「ケイちゃんの息子だね」と声をかけられ、顔見知りの人だらけでホッとした反面、すごいプレッシャーを感じたのを今でも思い出します。  
今、定年を迎えますが、入所者の皆さんや、職場の同僚の皆さんに支えられ、無事にこの日を迎えられましたことに、感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。定年退職という一つの区切りを迎えますが、もう一年お世話になります。どうか、よろしくお願い致します。  
そして又、これからも“隣人”としてよろしくお願い致します。

随筆

## おばあさんの立ち話

今野 きよし

A あーら、しばらくぶりでしたね  
B そうでしたね。しばらくぶり  
A いつだったかね、会ったのは：  
春先でしたか  
B おら、忘れてしまったでば  
A 今日はどこまで行って来たのしゃ  
B 新生園に行つて来た  
A 今日、何かあったのすか  
B 山形から大泉逸郎さんという歌手の方が慰問に来てね、歌聞いて来た  
A あーら、良かったこと。孫の歌の人すか  
B そうでした、あんだ詳しいごだ、色々知っているね

A そんなことないのしゃ、たまたま知つていたの  
B 歌手の名前は知らないけれども母ちゃんに教えて貰つてね  
A そうすか、あんだ家の母ちゃん、ええ人だね、教えて貰つて  
B そうです、なんでも聞かせてくれるし、色々やつて貰つて助かっています  
A 歌何曲位歌つたのしゃ  
B 数えていないけれども、孫の歌三回位歌つたような気すたね。孫も大学生だなんて云つてました。  
A 時間長かつたのすか  
B 一時間三十分位だつて云つてました  
A それはたくさんだつたね  
B ほでがすた。はじめに自治会長さんが挨拶して、園長先生の挨拶あつて、歌いはじめて、一時間びつたり、サービス十五分位、一時間三十分びつたり  
A それは良かったね

B 来月六日にも、宮城ハンセン協会の慰問があるって云ってました。七日も慰問があるそうです。

A その時は、おらも歌聞かせて貰いたいね  
B 今日も退職した人、それから隣り近所の人も大勢居すたけ

A おら、気引けとも聞かせて貰えかな

B 十一月六日は招待された人が行くそうです。七日はええでないのですか。今日はおらも行つて来たから

A 十一月七日にも歌手の方の慰問のすか  
B 宮城県の方と岩手県の方と二人来るそうです

A その日には、ぜひ聞かせて貰いたいですね

B ほで、その前におら家の母ちゃんに聞いて貰って、母ちゃんに電話かけるように頼むから

A そうすて貰うと助かります。あんだええ

お嫁さん貰つたね。話聞かせて貰つたつて、うらやましい

B ほんだね。おら家みたいなどこさ来てくれてね、申し訳なかつ

A あんだ、家の息子さんかええがらでがす  
B 女の子の中さ、出来たもんだから甘やかすてしまつてね。他の人には「さと息子」て云われて、甘つたれに育つてね

A あんだ、そう云つたつて、あんだ家の息

A 子さんがええがら、良いお嫁さん来てくれたんでがす  
B なにも良い息子と思つていないけれども申し訳なかつ

A そんなこと云わないで喜ばえん  
B そうだね、そう思ひす  
A 新生園は昔から盆踊りだの、映画見に行つたね

B そう云えばほんでがすちゃね。この頃は

A 花火見物もあるし、大勢の人集まるねや

A 新生園は人集まるんだね

B ああ良かった、しばらくぶりで会えて、話もできたし、命の洗濯できた

A 何おれみたいな者に会えたからつて、大げさでないのですか

B ほんなことござりえん。十分です。何もかも本当にうれしくて、今夜は母ちゃんさ、この話聞かせて喜んで貰うべ

A おらみたいな者に会つたがらつて、ずいぶん大げさに喜んで貰つて、なんだべ。遅れてしまった。おら家さ寄つて休んで貰うと良かったね。今頃気づくなんて、

話さ夢中になつてしまつて

B ほんなことござりえん。又話聞かせて下さい、又会いたいね

A ほんでまず、日暮れない中に気づけてね  
B はい、ありがとうございます。早く家さ帰つていろいろ息子さも、話聞かせねけね。又

かつて笑われるけれどもね

A 聞いてくれる人居るから良かすべ

B ほだちゃね。そのとおりでだね、今日はどうもありがとうございます。又来るからね宜しく

A さようなら、ああ行つてしまつた



## 「思い出」

看護助手 晝 八 順 子

新生園に勤務して三十六年六か月、あつと言う間に歳月が経ちました。

昭和五十三年食堂（白萩荘）勤務として採用。その頃の白萩荘は木造作りで、調理場は土間でした。食堂北側に木造二階建ての看護学生寮、南側には官舎がありました。そして看護学生は二十五名。職員は数十人の食事作りを二人勤務で行いました。大勢の料理を作るのは初めてなので、大きな鍋を目の前にして大丈夫、務まるだろうか、皆さんの好む味付けにできるだろうかと緊張と不安な思いで作っていた事は今でも忘れられません。でも、

学生さん達に「おいしかったよ」と言われた時は、正直嬉しかったです。

それから、朝、昼、夕と食事の時間に、食堂内は看護学生の元気な声が響いていましたが、昭和五十九年に看護学校は閉校になりました。六年六ヶ月、看護学生への食事作りは終了になりましたが、今でも忘れられないのは、どうしよう汁を作るのに味見ができなくて、学生さんに助けて頂いた事もありました。その後、白萩荘も建て替えられて食堂勤務と本館での掃除や事務室での仕事でした。

次に、高松宮殿下、妃殿下がお見えになられた際には、接待をすることになり、緊張のあまり、お茶を出す手が震えて、湯呑みの蓋が音を立って止まらなかつた事を今でも忘れられません。食堂と本館勤務で十年六ヶ月、私にとつては多くの方々との出会い、そして別れがありました。その中で良い経験をさせて下さった事に感謝しています。

平成元年四月に介護員として採用。配置は、

栗駒センターで五つの寮があり、食堂は二ヶ所でした。そして、何も分からない事はばかりで、諸先輩方には色々と教えて頂きました。

障子貼り、補食の作り方、入所者の皆様との関わり方等指導して頂いた事を、自分なりにメモを取り、実践してきました。そのお陰で何とか介護職を務め終える事が出来ました。

それから、行事等もいろいろありました。春と秋のバス旅行、運動会、そして中央集会所へ移動してのお楽しみ会と、入所者の皆様には、楽しい思い出を沢山頂きありがとうございました。

介護員になり、入所者の皆様に出会えた事で、多くの事を学ばせて頂いた事に感謝の気持ちでいっぱいです。そして無事二十六年看護助手として、卒業を迎えられたのは、入所者の皆様、スタッフの皆様を支えられて、こ

今までこれた事に感謝いたします。

本当にありがとうございます。

どうか皆様もお体を大切にされ、健康で過ごされることを願っています。

長い間、お世話になりました。

## 「思い出」

看護助手 佐 藤 宏 行

賃金職員で福祉室自動車運転手として採用になり、今日まで勤めることができました。

当時は、木造の建物が多く、本館・福祉室・楓会と全てが古く、今とは格段の差でした。

福祉室の前には猿小屋があり、毎日猿を見ながら仕事をしていました。昼休みにはゲートボールの練習をするのですが、参加者が多

く、常に順番待ちでした。

春には盆栽愛好会の方々と盆栽を買いに鹿沼まで、秋には菊愛好会の方々と山形県南陽市まで毎年一緒に旅行に行きました。

カラオケ発表会・ソフトボール大会・大運動会、今思えば入居者様も皆若かった。二十代で採用になり、今六十歳。三十数年の思い出がたくさんあります。

皆様方と出会い、たくさんのお出を出を頂いたことに、本当に感謝致しています。有難うございました。

## 二十三年の勤めを終えて

看護助手 尾形 のりえ

私は、新生園に初めてお世話になる事になったのは、代替として短期で働いたのがきっかけでした。三回程お世話になり、しばらくすると、新生園から電話があり、採用しますの電話がありますから来て下さいと言われ、意外だなあと来てみると、「採用となりますので、宜しくお願ひします」とのお話を頂き、帰って来て、その事を母に話しました。友人も心配していたので、その事を話すと、友人のお母さんがとても喜んでくれ、「お祝いだ、おいしいものを食べに行こう」と一関に連れていって下さい、お腹いっぱいにお馳走になり、家に戻ると、新生園から電話がきており、すぐに連絡が欲しいと言われ、すぐ

連絡すると「尾形さんですか？一年が過ぎているので、採用は破棄になります。」との話に喜んだり、がっかりしたりの一日で終わった。

半月過ぎた頃、新生園からの電話があり、何なんだろうと思っていると、労働組合からの話で、内容を知りたいと。同じ事が二か月後も続き、私も仕事があったので「もう、いいですから」と諦めていました。それから、しばらくすると、新生園から「採用しますので、来て下さい」との話に、組合の人からも「必ず来るように」との事で、本当だろうか不安な気持ちでいっぱいでしたが、来てみると、採用通知を頂き帰ってきました。

それから、しばらくして労働組合の方々が懸命に頑張つて下さった事で採用になった事を聞かされました。色々なこともあり、平成四年四月十五日から勤めることになりました。

先輩たちには、丁寧に仕事を教えて頂き、

それと車のない私に車の免許を取るよう勧めてくれ、慣れない仕事をしながら、車の免許を取る事になり、毎日が大変でしたが、皆に励まされながら免許を取り、家族を乗せることが出来ました。

数か月後に母が亡くなり、何かと落ち着かぬ日々を暮していました。そんな時、ある入居者の一人から「おれの部屋にちょっといい」と言われ、話をあまりした事のない方だったので、何だろうと思いついてみると、「そこに座れ」と言われ、何か怒られるのかとドキツとしていると「いいか、どんなに苦しくても絶対ここを辞めてはだめだ。生きるためだ。色々大変な事がいっぱいある。中にはいじめめる人もいるかも知れない。普通の患者と違って色々な人もいるけれど、絶対何があっても辞めるな。いつかきつといい日が来る。最後まで頑張れ。」と声を掛けて頂き、驚きと有難さで胸がいっぱいになりました。それから、何人かの人たちにも同じ事を言われ、

感謝で胸が熱くなりました。昔の栗駒寮のあ  
る方たちでした。その方々も、この世を去っ  
てしまいとても残念です。

それからすぐ、高砂寮に異動になり、毎日  
変わらぬ日々を過ごしていた時、私には難し  
い縫物を入居者様から預かってしまい、介護  
長に「縫製にお願ひして来ます」と話すと、  
代わりに縫物をするから、余興を考えてくれ  
との事にびっくりして何を言っているのだろ  
うと思ひ、断ったのですが「あんたなら大丈  
夫」と聞き入れてもらえず、そのうち十日が  
過ぎて、先輩には「早くしないと時間が無く  
なる」と言われて焦っている時に、入居者の  
ひとりから、昔小さい時、良く農作業の手伝  
いをさせられたなあ、懐かしいなあ、今は出  
来ないけど、懐かしいよと話を聞き、やっと  
「これだ」と思つて皆に話したら、それがい  
いと言つて頂き、それぞれ一生懸命になり考  
えて頂き、『箱ぶち』からはじまり、『稲扱き』

をして『もろ付き』をし、皆に配る内容でス  
タッフ一同全部が進んで出てきてくれました  
た。師長自ら『田植え』をして頂き、介護長  
の一人には牛になつてもらひ、介護員の一人  
は田んぼの道端で子供に乳をあげている人、  
『稲扱き』に本物のわらを使い、寝てうずま  
き傘を回し、入居者の人にも『稲扱き』をし、  
わらを投げ飛ばす所をして頂き、それがとて  
も受けて、楽しんでもらうことが出来た。

皆の力を借りて、とても素晴らしいもので  
した。入居者の方々も忘れるまで楽しかった  
と何度も話され、何も出来ない私が、たった  
一つの宝物となり、思い出になりました。

入居者の方々はじめ皆様には、色々教えて  
頂き本当に感謝でいっぱいです。そして一日  
でも長く生きて、少しでも楽しんで過ごせま  
すようお願い申し上げます。

本当にありがとうございます。